

連携協働通信「架け橋」

令和8年 3月30日

横浜市教育委員会 学校支援・地域連携課 発行 NO. 48

各学校や地域における地域学校協働活動の推進を目的に、地域と学校の連携・協働に関する情報を発信する連携協働通信「架け橋」を発行しています。当課のWebサイトでもご覧いただけます。

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kosodate-kyoiku/kyoiku/sesaku/chiikirenkei/kakehashi.html>

何故、社会とつながる学びが必要なのか

12月4日(木)、12月12日(金)に、教職員を対象とした研修を実施しました。今回の研修は、教職員育成課の第2ステージ研修ともタイアップをし、多くの先生方に参加していただきました。講師は「認定特定非営利活動法人こまちぷらす」の理事長である 森 祐美子 様をお迎えして表題の件について、講演していただきました。



今回の研修では・・・

●学校の外(こどもたちが生きていく社会)における協働の事例を知る

●自分にとっての「学校と地域の連携」について考えを深める

●連携の中で難しい局面、どう整理するか、フレームワークやツールを知る

というポイントを踏まえながら、参加した先生方がグループで、対話を重ね自分自身の考えを照らし合わせながら研修を行いました。

講演では実際に『こまちぷらす』で行っている地域社会や企業との協働事例やプロジェクトの紹介の一つとして、飲み物を販売するための自動販売機でおむつを販売したプロジェクトの話がありました。そのプロジェクトのきっかけは、一人のお父さんの「おむつが自販機で買えたらいいな」という一言。そこから、おむつの販売会社と自販機の会社がつながることができ、設置につながったというお話でした。そのお話の中に、協働のヒントが隠れていました。

そのヒントから、協働を行うための目的の捉え方について、「何のために」行うのかという目的はそれぞれにあり、それぞれの「したいこと」が違う、という前提のもとに共有の目標をつくる。その目標を達成することでそれぞれの目的が達成できる。それが協働となる。そのために自分のことも相手のことも理解することが大切だというお話でした。しかし、実際に連携を始めると様々な困難も考えられます。そのようなときに活用できるツールの例を教えてくださいました。

その後、そのツールを使用して、自分の現状を具体的に課題として捉え、それを基にワークに取り組みました。まずは課題から解決した後の姿をイメージし、その解決のためのハードルや既存の取り組み、専門性など一つ一つ考えました。そこから、解決策をグループで意見を出し合いながら考え、模造紙にまとめていきそれらを最後にみんなで見合いました。

今回の研修を通して、地域社会とつながることの考えやイメージが深まり、連携を進めていく第一歩になっていただけると幸いです。各校の取組が充実して、子どもたちの豊かな学びの実現につながっていくとよいと思います。



研修振り返り（自由記述）

（アンケートより抜粋）

- ・連携という言葉を正しく認識できていなかったことを実感した。今までは、学校がやりたいことを説明して、一緒に実行・お手伝いしてもらうような形に留まってしまっていた。そうではない連携の形を教えてもらえたので、今後の学びの展開に生かしていきたい。
- ・今回「つながる」とは、どのようなことか考えるきっかけになった。目的は違っても、共有できる目標があると、それを達成することで、自分の目的も達成することができる、と具体的な事例をもとに学ぶことができた。達成するためには様々な困難があると思うが、その話し合いややりとり、対応等のプロセスがとても大切であると分かった。
- ・自分の現状を改善し課題を解決するためには、個人の努力だけでなく、自分の専門性と他者の専門性を掛け合わせるということが有効であるという点が印象に残った。さらに、実践事例を通して、双方の専門性を組み合わせることで課題を解決し、理想を実現する具体的なイメージを持つことができた。
- ・働き方改革、AIの導入など変わりゆく学校現場の中で、少しずつ学校と社会とのかかわりが離れていっているような気がしていた。多くの人たちで知恵を出し合って、子どもたちがこの先、生きていく社会や地域とつながることの大切さを改めて考えることができた。変えていかなければならないこと、やり方は変えても目的を忘れてはいけないもの、どんな時代でも変えてはいけないものなど、それぞれの視点をしっかりと整理して、この難しい時代を子どもたちと一緒に進んでいきたいと思った。
- ・社会とつながるにあたって「はじめの一步」にハードルの高さを感じていた。社会・地域と繋がることを目的としていた部分が大きくなっていてのを感じた。現状の課題を把握し、解決した結果どのような姿を目指すのかを明確にしたうえで、解決策を検討していきたい。

学校運営協議会の可能性～子どもの学びと学校運営から考える～

1月30日（金）に教職員を対象に「学校運営協議会の機能を活かした地域と学校の連携・協働～現在の課題を踏まえ、次の一步を考える～」というテーマのもと、講師にCSマイスター 朝倉 美由紀 様をお迎えし、講演をいただきました。

また、この研修は、教職員育成課の第3ステージ研修ともタイアップをし、多くの先生方に参加していただきました。

講師の朝倉様からは、これから一人一人が地域と学校の連携・協働のために何を大切にしたいかを考え、次年度に取り組むべき課題を考えることをゴールにした講義をいただきました。お話では、実際に行われている学校運営協議会の協議内容の例を挙げ、学校と学校運営協議会が課題を共有し合い、子ども達をどう育てるかについてどのように考えていくとよいか、自分の学校と重ねあわせながら考えることができました。



具体的には、

- 社会に開かれた教育課程を実現するために、学校運営協議会で協議された取組を、どこに位置付けるのか、教育課程の中か外かまでともに考えることが大切。そのためにも、教育課程の見える化をし、共有していくことは必要。
- 学校運営協議会は、評価してもらう会ではなく、学校の抱える課題を協議するなかで、自分ごととしてとらえ、解決方法を一緒に考えていく会である。
- 学校運営協議会制度を手立てとし、評価などを基に取組を検証し、学校運営のマネジメントするサイクルを創っていく。 などのお話がありました。



研修を通して、地域連携についての考えやイメージが深まり、そのことを各校で共有していただき、実際の連携の場で活用していただけると、各校の取組が充実していくのではないかと思います。今回の研修が、参加された先生方の引き出しとして蓄積され、子どもたちの豊かな学びの実現につながっていくことを願っています。

研修振り返り（自由記述）

（アンケートより抜粋）

- ・中堅教員は、管理職と若手教員、地域をつなぐ「橋渡し役」としての役割が求められていると感じた。学校運営協議会で共有された地域の願いや意見を、日常の教育活動や授業改善に具体的に落とし込み、校内に広げていくことが重要である。これまで学校運営協議会に直接関わる機会が少なかったため、研修で学んだことを生かしながら積極的に連携を取りたい。
- ・年間数回設定されている自校の学校運営協議会について、あまり自分の意識が向いてなかったことに気付くことができた。自校の学校運営協議会の運営についてしっかり考え、正しい知識をもてた。子どもたちを育てるのは学校だけでなく、地域と連携・協働して育てていく仕組みが大切なことを考えさせられた。
- ・地域連携では、学校が地域にお願いしたいことを明確にした上で自ら主体的に地域に関わっていこうとする姿勢を示すことが大切だと感じた。そのためには、現在の学校運営協議会の在り方を見つめ直し、学校が地域と主体的に対話、協働ができるようなやり方に少しでも近づけていきたいと思った。
- ・立ち上げから尽力されてきたことや上手くいかなかった具体例なども詳しくお話してくださったので、深い学びとなった。学校運営協議会がもつ機能を理解することができた。学校と地域が連携し、子どもたちにとってより良い教育環境を創り上げていくことの大切さを痛感し、地域が強力な味方になってくれることも改めて感じる事ができました。学校の「外」からの視点を取り入れることが「強み」になることがあるので、学校側と地域が上手に連携していきけるように尽力していきたい。

令和7年度 第5回 学校・地域コーディネーター養成講座

『各校の取組の紹介を通じて交流会、発表会を実施！』

学校・地域コーディネーター（地域学校協働活動推進員）養成講座の最終回として、2月13日に北部と南部、16日に東部と西部の方々にお集まりいただき、交流会、取組発表会を実施しました。

今回の講座では、次のような流れで行われました。

- ①学校自慢1分間スピーチ
- ②自由に交流
- ③グループを作ったの交流（まだ話をしていない方を中心に）
- ④まとめ

①の学校自慢では、各学校での取組をまとめたシートを基に発表を行いました。1分間という短い時間ではありましたが、それぞれの活動や思いが伝わり、皆、真剣に話に耳を傾けていました。

②③の交流では、①で聞いたことをさらに詳しく聞いたり、名刺交換を行ったりすることでコーディネーター同士の横のつながりを作りました。また、活動をまとめたシートには、参加者が気になった活動や発表を聞きたい等、興味を持った学校の資料に「いいね」の付箋を貼ることを通して、互いの頑張りや認め合い、事例を共有しました。





◇最後に④では全5回の講師を務めていただいた高橋様より今年度の講座のまとめとしてお話をいただきました。

「その活動はなんのため？」

地域と学校がパートナーとなり、地域全体で子どもたちの成長を支え、地域を創生する活動を推進する。



【ポイント1： 地域学校協働本部の3つの要素】

① コーディネート機能

緩やかなネットワークを形成＝地域学校協働本部自体がつながる『場』として存在。
多様な人と会いつながりを作ることは、活動の一助につながる。

② 多様な活動

参画してくださる方が、その活動が楽しく「意味のあるものだ」と実感しながらできるように、想いの浸透に努める役割もある。

③ 継続的な活動（継続・安定）

学校の教職員や地域学校協働本部の構成員がかわっても、継続的に地域住民が参画し、安定した活動を進める。

【ポイント2： つながる：情報収集・情報発信・情報の整理】

情報収集のコツ！「つながる」ことを楽しむ。

情報の循環を行うことで、できなかったことができるようになる。

【ポイント3： コーディネーターの活動は社会教育】

・まちづくりの視点で活動（社会教育）をするために、学校教育への理解をもった地域との調整役が必要となる。

・これからの活動では、子どもを真ん中に、自分たちの考える**ウェルビーイング**が大切。

☆ 3つの『きく』力

「尋ねる」ための聴く力 ・ 「聞き出す」ための訊く力 ・ 「じわじわ」効く力

【教育振興基本計画のポイント】

今後の教育の方向性を示す羅針盤となるべきものを目指す2つを大きなコンセプト

「持続可能な社会の創り手の育成」及び「日本社会に根差した**ウェルビーイングの向上**」

☆この活動の継続のコツ！→子どもたちの未来を創造しながら、ご自身のウェルビーイングも大切に！

◇今回、講座を修了された学校・地域コーディネーターの方について、朝会や集会、学校説明会、学校だより等を通してコーディネーターの方々の周知をぜひお願いいたします。

また、教職員の方々へ周知していただくことで、学校内での活動につながっていくことが考えられます。ぜひ、顔の見える関係づくりをお願いいたします。学校・地域コーディネーターとのコミュニケーションを密にとり、信頼関係の構築を図ること、学校の求めていることを共有することで充実した活動につながっていくと思います。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

研修振り返り（自由記述）

（アンケートより抜粋）

【学校・地域 CO の参加者より】

- ・第1回目から終わりまで、全ての時間が有意義だった。まだまだ学びたいことがあったが、つながることの大切さをたたきこんでいただいた。今後も学び続けながら、楽しみたい。
- ・いろいろなワークや交流を通してたくさんのがが学べた。変わらずできることを無理なく活動して、子ども達と楽しく活動できるというなと思った。
- ・今後のコーディネーター活動の大切さやあり方について考えることができ、大変ためになった。これからも学校や子ども達のためにたくさん活動していきたいと思う。
- ・学校・地域コーディネーターのことをもっと多くの人に知ってもらいたいと思った。（自分も知らなかったの...）子どもや学校に寄り添えるコーディネーターになりたい。
- ・学校によって特色のあるサポートや活動があり、参考になった。もっと自分も周知をしていきたいと思った。

【学校管理職の参加者より】

- ・コーディネーターの研修に臨んでいる皆さんのバイタリティに感動しながら話を聞きました。PTAの形が変化しつつある中で、地域・学校協働本部の存在の大きさを改めて感じました。
- ・1分間で説明をするという意味を深く理解することができました。コーディネーターの皆様のパーソナリティーや活動する力に感じました。その基に成り立っていることを改めて感じました。皆様の熱意が学校にうまく伝わり、お互いに力を合わせていくことが必要だと感じました。
- ・コーディネーターの皆様の熱い思いにふれ、心が温かくなりました。多様な取組についての発表が大変参考になりました。

令和8年度 学校・地域コーディネーターの配置について

来年度の推薦に向けて新しく学校・地域コーディネーターの配置を考えている場合は推薦の準備を進めていただきますようお願いいたします。学校・地域コーディネーターについてQ&Aを次にまとめています。ご参考ください。提出書類等の詳細については、次を参考に学校便利帳をご確認ください。

【学校・地域コーディネーター（地域学校協働活動推進員）の推薦】

○令和8年2月18日付教学第2583号「【希望校のみ】令和8年度地域学校協働活動推進員の推薦について」

提出締切日…令和8年3月13日

○令和8年2月18日付教学第2609号「【希望校のみ】学校・地域コーディネーター（地域学校協働活動推進員）の複数校兼任について」

提出締切日…令和8年5月11日

○令和8年3月10日付教学第2741号「【希望校のみ】令和8年度学校・地域コーディネーター（地域学校協働活動推進員）養成講座への受講者の推薦について」

提出締切日…令和8年5月8日

学校・地域コーディネーター

Q&A

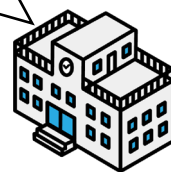


「学校・地域コーディネーター」とは、どんな役割ですか？
また、横浜市には「学校・地域コーディネーター」がどのくらいいますか？

「学校・地域コーディネーター」は、学校運営協議会と同様に、地域と学校を繋ぎ、総合調整を行う役割があります。学校運営協議会と地域学校協働活動との一体的な推進を進めるうえで重要な部分になると考えています。

R7年度は139名の受講者が「学校・地域コーディネーター養成講座」を受講しています。うち3校は初めて学校・地域コーディネーターの推薦を行った新規校でした。

現在、横浜市では470校に学校・地域コーディネーターが配置されています。

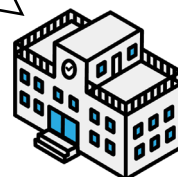


どうやって「学校・地域コーディネーター」になることができますか？

「学校・地域コーディネーター」は学校長の推薦が必要です。その推薦を受けた方については、年間5回の「学校・地域コーディネーター養成講座」を受講していただいています。

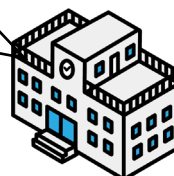
また、複数人配置することで活動が活発になることも考えられますので、お仲間を増やすことも可能です。一度に複数名の推薦も可能であり、複数名での養成講座への出席も可能です。

推薦は、令和8年3月中旬より開始予定です。推薦をもって6月より開始される学校・地域コーディネーター養成講座が受講可能となります。



近隣の複数の学校で「学校・地域コーディネーター」をやりたいと思っていますが可能ですか？

「学校・地域コーディネーター」は複数校の兼任をする場合は、関係する複数校の校長間での調整後、推薦があれば可能です。その場合、兼任届の提出が必要となります。すでに他の学校で養成講座を受講し、学校・地域コーディネーターとして活動している方については、兼任にあたって養成講座を改めて受講いただく必要はありません。



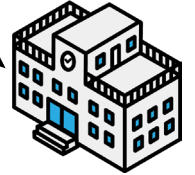


学校・地域コーディネーターの養成講座が終わった後の、2年目からはどんな研修がありますか？

養成講座が平成19年からスタートし、各学校におきましてはここまで多くの方を推薦していただいています。

養成講座開始当初と比べると、学校の状況は大きく変わっており子どもを取り巻く環境も変わっています。当課の研修の際にも、現在の学校の状況等もお話させていただいており、コーディネーターの方々にもブラッシュアップしていただきながら学びを続けていただき、学校のニーズを把握していただいたうえで活動を続けていただきたいと考えています。

次年度も当課において、様々な研修を開催していきますので、ぜひコーディネーターの方々にも出席していただくと幸いです。引き続きよろしくお願いたします。（※詳しい内容については次ページにある「研修のお知らせ」をご覧ください）



R8年度 研修のお知らせ

☆学校・地域コーディネーター、学校運営協議会会長及び協議会委員の皆様へ☆

学校や児童・生徒を取り巻く環境が時代とともに変化してきています。

ぜひ、研修に参加していただき、新しい情報を学校と地域の連携に役立てていただけたら幸いです。

また、2～3年以内に学校支援・地域連携課が開催している研修を受講されていない方は、ぜひ積極的な参加をお願いいたします。

学校・地域コーディネーター研修・交流会

学校・地域コーディネーターを対象に、研修及び交流会を方面別に日時を設定して開催します。

令和8年度も2回実施する予定です。回ごとに参加の対象が異なりますのでご注意ください。

○日時及び会場

回	日時	参加対象者	会場
1	第1回 5月29日(金)	午前の部 9:30～ R2年度以降に CO養成講座受講	花咲研修室
		午後の部 14:30～ R元年度以前に CO養成講座受講	
2	第2回 11月12日(金)	午前の部 9:30～ R2年度以降に CO養成講座受講	
		午後の部 14:30～ R元年度以前に CO養成講座受講	

※予定が合わない場合は参加対象年数が異なる場合でも変更は可能です。

「学校運営協議会」と「地域学校協働活動」の一体的な推進について

学校運営協議会会長、学校運営協議会委員、学校・地域コーディネーター及び教職員を対象に、標記研修を開催します。 教職員向け研修コード【26ik0703】

○日時及び会場

回	日 時	会 場
1	7月3日(金) 15:00～	花咲研修室
2	7月10日(金) 15:00～	

※講師は 文部科学省 CS 推進名誉マイスター 竹原 和泉氏を予定しています。

何故、社会とつながる学びが必要なのか①

教職員を対象に研修を行い、地域と学校の連携・協働について知っていただきたいと考えています。

※教員研修の第2ステージ研修(選択)としても受講できます。 教職員向け研修コード【26ik0729】

○日時及び会場

日 時	会 場
7月29日(水) 14:00～	花咲研修室

※講師は 認定 NPO 法人こまちぷらす 理事長 森 祐美子氏 を予定しています。

学校運営協議会委員及び学校・地域コーディネーター及び教職員合同研修

学校運営協議会委員、学校・地域コーディネーター及び教職員を対象に、標記研修を開催します。

教職員向け研修コード【26ik1016】

○日時及び会場

回	日 時	会 場
1	10月16日(金) 15:00～	花咲研修室
2	10月23日(金) 15:00～	

※実践校による事例発表を予定しています。各校の取組を一層推進する際の参考にしていただくと幸いです。

何故、社会とつながる学びが必要なのか②

教職員を対象に研修を行い、地域と学校の連携・協働について知っていただきたいと考えています。

※教員研修の第2ステージ研修(選択)としても受講できます。 教職員向け研修コード【26ik1203】

○日時及び会場

日 時	会 場
12月3日(木) 15:00～	花咲研修室

※講師は 認定 NPO 法人こまちぷらす 理事長 森 祐美子氏 を予定しています。

「学校運営協議会」と「地域学校協働活動」の一体的な推進について

教職員を対象に研修を行い、「学校運営協議会」と「地域学校協働活動」の一体での推進について学びを深め、自校の取り組みに活かしていただきたいと思います。

※教員研修の第3ステージ研修（選択）としても受講できます。

教職員向け研修コード【26ik0204】

○日時及び会場

日 時	会 場
2月 4日（木） 15:00～	花咲研修室

※講師は 明星大学教育学部 特任教授 朝倉 美由紀 氏 を予定しています。

